

2022 SUPER FORMULA Team Report : Round 3

2022.5.24

Round 4 オートポリス(4.674km)

TEAM GOH シリーズ参戦 4 戦目にして初表彰台を獲得！

- ・53 号車の佐藤蓮はギアボックストラブルに泣かされ不完全燃焼
- ・55 号車の三宅淳詞、ファステストラップを記録し3位でフィニッシュ、初表彰台！

・予選 5 月 21 日: 天候: 晴れ、21℃ 路面: ドライ、31℃
・決勝 5 月 22 日: 天候: 晴れ、24℃ 路面: ドライ、44℃

◆53 号車 佐藤 蓮

予 選: 12 番手(1分 25 秒 429)

決 勝: 17 位(40 周回

(*規定の37周回をクリアしたため完走扱い)

◆55 号車 三宅 淳詞

予 選: 5 番手(1分 24 秒 964)

決 勝: 3 位

5 月 22 日(日)、2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権ラウンド 4、オートポリス大会決勝レースが行われ、TEAM GOH の 55 号車をドライブするルーキー、三宅淳詞は、みごとに自身シリーズ初の 3 位表彰台を獲得しました。また、TEAM GOH にとっても参戦 4 戦目にして初の表彰台獲得となりました。



これまでの4戦の中では最も前となる3列目5番グリッドからスタートした三宅は、スタートの混乱の中でポジションを2つ落としてしまいましたが、その後は快調なレースペースを守り周回を重ねていきました。

規定の10周回を終えて早々にピットインを敢行しタイヤ交換を終えてコースに戻ってきたライバルたちと比べて速いペースで走っていた三宅の55号車は、ステイアウトで引っ張る作戦に変更。最終的に32周回を終え、全21台中最後にピットインし、ニュータイヤでコースイン。



ピットストップのタイヤ交換タイムは8.3秒と決して速いとは言えないものでしたが、なんとか野尻智紀選手の前でコースに戻るとコールドタイヤでのアウトラップ勝負を制し、3位表彰台圏内のポジションにつきました。



ニュータイヤに履き替え、燃料も軽くなっている状態で、三宅は34周目でセクター3のベストタイム、35週目で1分28秒747のファステストラップ、さらに37周回目でセクター1でのベストタイムを叩き出し、42周回のレースを3位でフィニッシュしました。



一方、予選12番手となり6列目からスタートした53号車の佐藤蓮は、42周回のレースのフィニッシュを目前にギアボックスのトラブルに見舞われ、40周回でマシンから降りる残念な結果となりました(規定の37周回以上のため完走扱い)。

◆チーム監督 山本雅史 のコメント

「三宅君が 5 番手スタートからみごとに 3 位表彰台を獲得してくれました。チーム一丸となって取り組んだ結果で、まずは表彰台にのぼれたことを喜びたいと思います。」

三宅自身、朝の FP2 とウォームアップから上手くセットアップをもってきて、今日はレースラップが本当に良かったので、作戦も立てやすかったです。チームとドライバー、皆に感謝したいと思います。」



「53 号車の佐藤蓮君は最終的にギアボックスのトラブルで 42 周回を走り切ることができませんでしたが、レースペース自体は悪くなかったと思います。」

オープニングラップの 3 コーナーでコースオフを喫して大きくポジションを落としてしまったことが今日のレースの敗因かと思いますが、その辺り、しっかり状況の確認とデータ分析をした上で、次の SUGO に向けて準備をしたいと思います。」



◆53 号車ドライバー 佐藤蓮 のコメント

「スタート自体は良かったのですが、3 コーナーで他車との接触を避けようとアウトに逃げたらコースアウトしてしまい、結果、オープニングラップで 18 番手まで順位を落とすことになり、追い上げのレースになりました。最後、12 番手で走行中にギアボックスのトラブルが発生してしまい、残念ながらチェッカーを受けることができませんでした。」

ただ、42 周回のレースの内 40 周回走れたので、データはたくさんとれましたし、セットアップの感度や、自分自身との合わせこみなども少しずつ進歩してきているので、次戦 SUGO では予選でしっかり前のポジションを獲得できるよう、チームと一緒に良いクルマを作っていきたいと思います。引き続き応援よろしくをお願いします。」



◆53号車エンジニア ライアン・ディングルのコメント

「スタートは、これまでの4戦の中で最も良いスタートができたと思います。オープニングラップの1コーナーと3コーナーで何がおこったのかは、これからレビューしないといけないのですが、結果的に大きくポジションを落として後方から戦うことになってしまいました。」

また、2回目のSC後のリスタートで前の車のペースが上がらずに、我慢を強いられる周回が続いたのも不運でした。そして最後にギアボックスのトラブルが発生してしまいましたが、それについては、これから原因を究明します。

チームとしては55号車の三宅選手が3位表彰台ということで、とても喜んでます。53号車も続けていけるよう次戦のSUGOに向けて準備します。」



◆55号車ドライバー 三宅淳詞のコメント

「3列目5番手スタートということでチャンスがあると思っていました。」

スタートではうまく場所をとれずに順位を落としてしまう場面もありましたが、10周過ぎたあたりから、周りのマシンより速いペースで走れていることがわかり、作戦変更してロングスティントでいこうとなりました。

ペースは良かったのですが、やはりタイヤは厳しくて、辛いと思う部分も多かったです。それでも、岡島エンジニアや、ドライビングアドバイザーの伊沢さんが毎週、毎週、適格なアドバイスをしてくださり、落ち着いてタイヤマネジメントもでき、3位を獲得できたのだと思います。

チームの皆さんのお陰、というか、まさにチームが一丸となって手に入れた3位表彰台でした。次のSUGOについても、このオートポリスと同様にSFマシンで走ったことのないサーキットなので、第3戦鈴鹿の時のようにならないように、序盤からしっかり良い流れを作れるよう事前の準備をしていきたいと思っています。応援ありがとうございました。」

◆55号車エンジニア 岡島慎太郎 のコメント

「朝の FP2はあまり調子が良くなく、三宅のドライビングも思う存分できないようなセットになってしまっていたのですが、幸い短い時間でしかたけど赤旗の時に良いものがみつかったので、そのデータを分析したものを決勝に向けてアジャストしました。

ウォームアップの走り出しでは若干不安もあったのですが、フィーリングは良く、伊沢ドライビングアドバイザーからの助言もあり、ドライビングで乗り切れるような方向で、最後のセット変更はせずに決勝にのぞみました。



ペース自体はタイヤの内圧が上がるまで厳しかったのですが、一度内圧が上がってからのペースはとても良く、10周回を終えて最初にピットインしたところよりも速いペースで走っていたので、ピットインは引く戦略でいきました。

また、野尻選手とタイム上のバトルがありました。表彰台獲得のためにしっかりギャップを築いてからのピットストップにしました。

終盤、ピットイン後ニュータイヤで行き、燃料も消費して軽くなっていたこともありましたが、ファステストも出せましたし、TEAM GOHとして初の表彰台獲得で、とても良い週末を過ごせました。次のSUGOに向けてもしっかり準備をしてのぞみたいと思います。」

